

# 愛知県環境審議会会議録

## 1 日時

2022年11月1日（火）午後3時～午後4時

## 2 場所

愛知県庁本庁舎6階 正庁

## 3 出席者

委員23名（会場出席10名、オンライン出席13名）

説明のために出席した環境局職員12名

## 4 審議の概要

### （1）開会

委員30名中23名が出席しており、定足数を満たしていることを確認

### （2）あいさつ

環境局長

### （3）議事

#### ア 会長の選出

山澤委員から榊原秀訓委員の推薦があった。

他に候補者はなく、全会一致で榊原秀訓委員が会長に選出された。

#### イ 榊原会長あいさつ

#### ウ 傍聴人について

会長が、傍聴人が1名であることを報告した。

#### エ 会議録の署名について

榊原会長が、会議録の署名人として、長田委員及び神谷委員を指名した。

#### オ 会長代理の指名

榊原会長が大石委員を会長代理に指名した。

#### カ 専門部会の構成

榊原会長が各専門部会を構成する委員、専門委員及び特別委員並びに各専門部会の部会長を別紙のとおり指名した。

## キ 報告

「あいち地球温暖化防止戦略 2030 の改定について」、事務局から報告があった。

### 【質疑応答・要旨】

(おおたけ委員)

再生可能エネルギーの導入目標について、資料 3 では 2030 年度の現状すう勢として約 490 万 kW とあるが、これは何もしなければこの数値になるのか。それとも目標として目指す数値なのか。目標に対する考え方について教えていただきたい。

(事務局)

現状すう勢は、このまま何もしない場合に見込まれる数値のことであり、目標は別に定めていくことになる。県の施策として、住宅用太陽光発電施設に対する一体的な補助メニューを設けており、そういった施策により再生可能エネルギーの導入量をどこまで積み上げて目標としていけるかがポイントと考えている。

(渡邊委員)

再生可能エネルギーの導入目標について、非住宅の割合が 2013 年度から 2021 年度にかけてかなり増えており、今後も増加する見込みである。しかし、生物多様性の観点からすると、愛知県で特徴的な湧水湿地等に、実際に太陽光パネルがどんどん設置されており、生物多様性が減少している状況があるため、そのあたりの配慮をお願いしたい。

(事務局)

現在、県全体で湿地の調査を進めており、渡邊委員ご指摘の湿地の状況についてもしっかりと把握をしていく。併せて、開発については、県において大規模開発行為に関する規制の法令を持っているため、関係部局と調整し、しっかりと対応していきたいと考えている。

(谷川委員)

2点、お伺いしたい。1つ目は目標値の設定について、現状はフォーキャスティング型の目標設定である。フォーキャスティング型の目標設定では、どこまで積み上げていけるかという考えになる。カーボンニュートラルを目標に掲げている以上は、カーボンニュートラルの実現に向けてどういう対策をしていくのかというバックキャスティング型の目標設定にしていく必要があるかと思う。この点について、どこまで考える余地があるのかお伺いしたい。

もう1つは、単純に脱炭素やカーボンニュートラルの実現だけにフォーカスして考えていくと、例えば、バッテリーをより多く使用することになり、希少金属の過剰な採取などの問題が起こることがある。このようなことをリソースパラドックス

(資源パラドックス)と呼んでおり、こうならないためにも地球温暖化と資源循環、自然共生などをセットで考えてバランス良く進めていかなければならない。このあたりの考えについてコメントをお願いしたい。

(事務局)

1つ目の目標設定について、国では2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減、2050年度までにゼロにするという目標を掲げている。愛知県では、国の施策により2030年度までに36%削減できる見込みであり、そこに県の施策によりどこまで積み上げができるかを別途、検討委員会で議論しているところである。

2つ目の他の環境分野とのバランスについて、国の施策とも整合性を持たせながら本県の施策を検討していきたい。

「第5次愛知県環境基本計画の進捗について」、事務局から報告があった。

#### 【質疑応答・要旨】

(谷川委員)

資料4ページの「3 資源循環」の指標である「廃棄物の再生利用率」について、廃棄物処理計画の検討の際、廃棄物部会で「出口側の循環利用率」に修正したと思うので、修正いただけるようお願いする。

(事務局)

谷川委員ご指摘のとおり、「廃棄物の再生利用率」は、昨年度の廃棄物処理計画の議論の中で「出口側の循環利用率」を示すものとして整理した。資料3では、一昨年度に策定した環境基本計画で用いた語句で表記した。現状の数値は、「出口側の循環利用率」を示している。

(4) 閉会

以上

愛知県環境審議会委員 長田 和雄

愛知県環境審議会委員 神谷 浩二



# 愛知県環境審議会専門部会構成員名簿

(2022年11月1日現在)

## 1 総合政策部会

(敬称略)

区分	氏名	職 業
部会長	深澤 龍一郎	名古屋大学大学院法学研究科教授
委員	浅川 晋	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
同	井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
同	大石 弥幸	大同大学名誉教授
同	高橋 祐介	名古屋大学大学院法学研究科教授
同	南 雅代	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授
同	山澤 弘実	名古屋大学大学院工学研究科教授
同	渡邊 幹男	愛知教育大学教育学部教授
専門委員	岸 英順	一般社団法人中部経済連合会エネルギー・環境部担当部長
同	中島 裕子	日本労働組合総連合会愛知県連合会事務局長
同	橋本 貴代	愛知県地域環境保全委員

## 2 大気・騒音振動部会

区分	氏名	職 業
部会長	山澤 弘実	名古屋大学大学院工学研究科教授
委員	大石 弥幸	大同大学名誉教授
同	長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
同	榊原 洋子	愛知教育大学健康支援センター准教授
同	高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター教授
同	水尾 衣里	名城大学人間学部教授
同	光田 恵	大同大学工学部教授
専門委員	杉山 範子	名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター特任准教授
同	東海林 孝幸	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系講師

## 3 廃棄物部会

区分	氏名	職 業
部会長	高橋 祐介	名古屋大学大学院法学研究科教授
委員	長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
同	谷川 寛樹	名古屋大学大学院環境学研究科教授
同	土井 万寿美	公募委員
同	中山 恵子	中京大学経済学部教授
専門委員	佐藤 雅彦	愛知学院大学薬学部教授
同	杉山 範子	名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター特任准教授
同	吉田 奈央子	名古屋工業大学大学院工学研究科准教授

#### 4 水質・地盤環境部会

区分	氏名	職 業
部会長	井上 隆信	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
委員	浅川 晋	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
同	神谷 浩二	岐阜大学工学部教授
同	榊原 洋子	愛知教育大学健康支援センター准教授
同	田中 礼士	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
同	南 雅代	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授
専門委員	石附 満江	愛知県生活学校運動推進協議会会長
同	神本 祐樹	人間環境大学環境科学部教授
同	神野 透人	名城大学薬学部教授
同	武田 美恵	愛知工業大学工学部教授
同	田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
同	廣岡 佳弥子	岐阜大学流域圏科学研究センター准教授
同	宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
特別委員	小林 勝利	東海農政局長
同	彦坂 謙二	中部経済産業局資源エネルギー環境部長
同	稲田 雅裕	中部地方整備局長
同	濱平 清志	第四管区海上保安本部長
同	中山 隆治	中部地方環境事務所長

#### 5 自然環境保全部会

区分	氏名	職 業
部会長	渡邊 幹男	愛知教育大学教育学部教授
委員	西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
同	増田 理子	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
同	守安 悠子	公募委員
専門委員	岸 英順	一般社団法人中部経済連合会エネルギー・環境部担当部長
同	香坂 玲	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
同	佐藤 勝彦	一般社団法人愛知県猟友会会長
同	高橋 伸夫	愛知県野鳥保護連絡協議会議長
同	富田 啓介	愛知学院大学教養部准教授
同	中川 書子	名古屋大学大学院環境学研究科准教授
同	西本 昌司	愛知大学法学部教授
同	廣田 憲吾	愛知県農業協同組合中央会常務理事
同	福田 秀志	日本福祉大学健康科学部教授
同	前田 徹	愛知県森林組合連合会代表理事専務
同	宮崎 幸恵	東海学園大学名誉教授
同	森部 絢嗣	岐阜大学社会システム経営学環准教授

## 6 温泉部会

区 分	氏 名	職 業
部会長	南 雅代	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授
委 員	高橋 祐介	名古屋大学大学院法学研究科教授
同	原田 守博	名城大学理工学部教授
専門委員	神野 透人	名城大学薬学部教授
同	中川 書子	名古屋大学大学院環境学研究科准教授
同	服部 維子	愛知県温泉協会理事
同	三村 耕一	名古屋大学大学院環境学研究科准教授